

# 施策評価シート

施策等名称	地域づくり・ひとづくりの推進	体系番号	0201020106
		主管課	生涯学習課

## 1 施策基本情報

現状と課題	<p>・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育的重要性は高まっている。</p> <p>・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進とともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。</p> <p>・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。</p>
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	地域づくり・ひとづくりを積極的に進めるとともに、地域・学校・行政の連携による学習活動が活発になるような、学習機会の場の充実と心の豊かさや生きる力を育む幅広い連携を目指す。

施 策 指 標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	
①	開かれた学校づくり講座参加者	講座参加者(人)	8,726		8,800
②	小泉山体験の森 山開きへの参加者数	山開き参加者(人)	280		300
③	多留姫文学自然の里・里まつりへの参加者数	里まつり(人)	150		200

施 策 の 柱 1	名称	学校を中心とした家庭・地域との連携・充実	主管課	生涯学習課	
	詳細	社会をたくましく生き抜く基礎学力を培い、生きる力(自己教育力)の育成に努め、学校と家庭・地域と連携・協働しながら、学校や家庭を含めた地域全体による教育の実現を図る。			
まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
1 学校開放講座参加者数	講座参加者数(人)	1,544	1 1,600	生涯学習講座関連事業 こども読書活動応援センター事業	実施
2 開かれた学校づくり講座参加者数	講座参加者数(人)	8,726	3 8,800	続りーむinちの活動支援事業 コミュニティスクール促進事業	実施
3			5 6		実施

### 基本政策間連携

施 策 の 体 系	名称	公民協働事業の充実	主管課	生涯学習課	
	詳細	公民協働のパートナーシップの手法により青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、必要な学習機会の充実を図り、青少年学習と体験学習の推進を目指す。			
まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
1 小泉山体験の森 山開きへの参加者数	山開き参加者数(人)	280	1 300	小泉山体験の森整備活用事業 多留姫文学自然の里整備活用事業	実施
2 多留姫文学自然の里 里まつりへの参加者数	里まつり参加者数(人)	150	3 200	団体負担金・団体補助金事業 共催・後援事業〇予算	実施
3			5 6		

### 基本政策間連携

施 策 の 柱 3	名称	人権教育の推進	主管課	生涯学習課	
	詳細	基本的人権が保障され、国籍、性別、高齢者、障害者、子どものいじめなど、あらゆる偏見や差別を許さない相互理解に立った人間性豊かな社会を目指す。			
まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
1 茅野市人権教育研修会参加者数	参加者数(人)	104	1 120	生涯学習講座関連事業	実施
2			2 3 4		
3			5 6		

### 基本政策間連携

施策評価シート

施策等名称	地域づくり・ひとづくりの推進	体系番号	0201020106
		主管課	生涯学習課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策等名称	地域づくり・ひとづくりの推進	体系番号	0201020106
		主管課	生涯学習課

## 2 指標等の推移と変動要因

施策等名称	地域づくり・ひとづくりの推進	体系番号	0201020106
		所管課	生涯学習課

施策等名称	地域づくり・ひとづくりの推進	体系番号	0201020106
		主管課	生涯学習課

### 3 評価・改革改善

項目		2018年(前年度比)	2019年(前年度比)	2020年(前年度比)	2021年(前年度比)	2022年(前年度比)	2018年～2023年(総括)						
投資額 (2018年～2023年(総括)については2023年の実績を記載)	事業費(円)	11,471,629		11,842,860	1.03	9,753,117	0.82	12,862,618	1.32	12,605,873	0.98	11,787,771	0.94
	うち一財(円)	11,471,629		11,842,860	1.03	9,753,117	0.82	12,861,218	1.32	11,572,793	0.90	11,758,291	1.02
増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)				小泉山体験の森整備活用事業における元気づくり支援金の皆減、生涯学習講座開連事業における講師謝礼の減等による。		小泉山体験の森豪雨災害による修繕費、コロナで昨年中止した成人式、講座等の実施による増、まちづくり推進事業補助件数の増による。							
評価	進捗評価	おおむね順調	おおむね順調	やや遅れている	おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調						
総合評価	主な取組内容や成果	生涯学習講座開連費の講座について、外部講師の知識や経験が学校教育への有効な効果をもたらしている。また、小泉山体験の森の看板リニューアル整備は、蓮れがちであった地域の親子の関わりを復活する効果がある。	生涯学習講座開連費の講座については、コミュニティスクール構想と合致し、学校を中心として家庭や地域とのつながりを深めている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、年度前半は中止した事業が多くあった。後半はできる事業から再開したが、感染の再拡大により、成人式や人権教育研修会など中止せざるを得ない事業もあった。	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した事業もあるが、成人式や小泉山体験など感染対策や工夫することにより事業の実施ができた。	(R4・総括評価共通)新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した事業もあるが、成人式や小泉山体験など感染対策を工夫し、実施できた。5年間のうち、約3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が中止になったが、少しずつでも進めることができた。	生涯学習講座開連の講座では、外部講師により、児童・先生への教育を進めることができた。また5年間のうち、約3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が思うようにできなかつたが、工夫して実施できたことを取り入れながら市民団体の活動に活かすことができた。						
	課題	生涯学習開連費の講座について、魅力ある講座内容を取り込む必要がある。公民協働の事業について、地区的役員と兼務である負担感や役員の高齢化が課題となる。	公民協働事業における市民の主体性を促す事務局の関わり方や事業内容が本来の目的に合致しているか、また、疲弊しないよう会員の負担軽減も考えていく必要がある。	新型コロナウイルス感染症は、地域づくり・ひとづくりに不可欠な集まって学習する機会を奪ってしまった。自然体験を通じた学習などオンラインでは開催が難しい事業もある。	新型コロナウイルス感染症は、地域づくり・ひとづくりに不可欠な集まって学習する機会を奪ってしまった。感染レベルが高いと実施が難しい、また自然体験を通じた学習などオンラインでは開催が難しい事業もある。	(R4・総括評価共通)新型コロナウイルス感染症は、地域づくり・ひとづくりに不可欠な集まって学習する機会を奪ってしまった。自然体験などオンラインでは開催が難しい事業もある。	生涯学習開連の講座について、学校開放講座は先生の負担が大きい。また市民団体の高齢化に伴う活動の維持と市が事務局としてどうかかわるかが課題。						
改革・改善	改革・改善内容	生涯学習講座開連費のうちコミュニティスクールや教職員の負担軽減から、学校開放講座を縮小し、開かれた学校づくりを充実する。小泉山体験の森の看板リニューアル整備事業において地域の親子参加を促す。	公民協働事業における市民の主体性を促すため、役員やメンバーと情報共有を密に行い、事業内容が本来の目的に合致しているかやメンバーやステークホルダーの負担になっていることはないかなど常に意識する習慣をつける。	コロナ下にあっても、密にならざりでできる方法を考えたり、感染対策を強化したうえで実施することを検討するなど、市民の学習機会を減らさないようにする。	コロナ下にあっても、密にならざりでできる方法を考えたり、感染対策を強化したうえで実施することを検討するなど、市民の学習機会を減らさないようにする。	コロナ下で工夫しながら進めてきた事業の良かったところを取り入れながら、今後の事業を進め、市民の学習機会を減らさないようにする。	生涯学習講座開連の講座の先生への負担の軽減、また市民団体の活動の見直しや事務局としてのかかわり方を検討する。						
	重点化する施策の柱	2	2	2	2	2	2						
施設の柱等の重点化	重点事務事業	1	1	1	1	1	1						
	理由	公民協働のパートナーシップのまちづくり事業の推進は、地域の生涯学習の場の提供や地域コミュニティの向上が図られる。	小泉山体験の森整備活用事業は、小泉山を取り囲む地区と近隣保育園、小学校、大学等の教育機関とも連携し、多くの人が関わり里山活用を行う先進事例である。	小泉山体験の森整備活用事業は、小泉山を取り囲む地区と近隣保育園、小学校、大学等の教育機関とも連携し、多くの人が関わり里山活用を行う先進事例である。	小泉山体験の森整備活用事業は、小泉山を取り囲む地区と近隣保育園、小学校、大学等の教育機関とも連携し、多くの人が関わり里山活用を行う先進事例である。	小泉山体験の森整備活用事業は、小泉山を取り囲む地区と近隣保育園、小学校、大学等の教育機関とも連携し、多くの人が関わり里山活用を行う先進事例である。	公民協働のパートナーシップのまちづくり事業の推進について、市民団体の持続可能な取り組み、また事務局のかかわり方を検討する。						

作成担当者	伊藤 研一	河西 茂廣	河西 茂廣	武居 直樹	武居 直樹	武居 直樹
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢 政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月18日	2024年7月11日